

# ICTリテラシー実態調査

つくろう! 守ろう! 安心できる情報社会



**総務省 情報流通行政局**  
**情報流通振興課**

# ICTリテラシー実態調査について

## 調査の目的

ICTリテラシー向上に資する取組の更なる推進のため、利用者のICTリテラシーに関する認識や偽・誤情報の拡散傾向等、ICTリテラシーに係る実態を把握する。

## 調査対象

調査対象 : 2,820サンプル 、 全国47都道府県×15歳以上（10・20・30・40・50・60代以上）×男女  
調査方法 : 全国インターネット定量調査  
調査期間 : 2025年3月31日～2025年4月2日  
調査協力 : 山口 真一准教授（国際大学グローバル・コミュニケーション・センター）

## 調査項目

### ICTリテラシー、偽・誤情報の拡散に関する「利用者の認識に関する実態把握」

#### ICTリテラシーに関する認識の実態把握等

|                      |
|----------------------|
| ICTリテラシーに関する認識       |
| ICTリテラシーに関する認識の回答理由  |
| ICTリテラシー向上のための取組の必要性 |
| ICTリテラシー向上のための具体的な取組 |
| ICTリテラシー向上のための取組理由   |

#### 偽・誤情報の拡散に関する認識の実態把握等

|                        |
|------------------------|
| 偽・誤情報の拡散経験             |
| 拡散時の偽・誤情報に対する認識        |
| 偽・誤情報の拡散理由             |
| 偽・誤情報の拡散手段/拡散した情報のジャンル |
| SNS・ネットの情報に対する正誤判断の基準  |
| 拡散した情報が偽・誤情報だと気付いた経緯   |

## 集計について

総務省統計局「令和2年国勢調査」の人口構成比を基にウェイトバックを行い調整

- 過去に流通した偽・誤情報を見聞きした人に対して、その内容の真偽をどのように考えるか尋ねたところ、**「正しい情報だと思う」、「おそらく正しい情報だと思う」と回答した人の割合は47.7%。**
- 偽・誤情報に接触した人のうち、**25.5%**の人が何らかの手段を用いて**拡散**した。
- **87.8%**がICTリテラシーを重要だと思っている一方、**75.3%**は、**ICTリテラシー向上に向けた具体的な取組を行っていない**と回答した。

### 結果の要点

|                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>1 偽・誤情報の認識・<br/>拡散状況</b>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 過去に流通した偽・誤情報を見聞きした人に対して、その内容の真偽をどのように考えるか尋ねたところ、<b>「正しい情報だと思う」、「おそらく正しい情報だと思う」と回答した人の割合は47.7%※1。</b><br/>※1 偽・誤情報の接触数に応じた加重平均で算出</li> <li>● 偽・誤情報に接触した人のうち、<b>25.5%</b>の人※2が何らかの形で<b>拡散</b>した。若い年代において拡散した割合が多かった。<br/>※2 偽・誤情報15件のうち、1件以上見聞きした人の中で、1件以上家族や友人などの周囲に伝えたり、不特定多数の第三者に対して発信したと回答した人の割合</li> </ul>     |
| <b>2 偽・誤情報の拡散<br/>理由と手段</b>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 拡散した理由として最も多いのは、<b>「情報が驚きの内容だったため」(27.1%)</b>。情報に価値があると感じて拡散したと思われる回答が多かった。</li> <li>● 拡散した手段として多いのは、「家族や友人など周囲の人へ対面の会話」(58.7%)、「家族や友人など周囲の人へメールやメッセージアプリ」(44.3%)など、<b>身近な人に拡散する回答が多かった</b>。不特定多数にインターネットを用いて拡散する者も存在した(44.4%)。</li> </ul>                                                                        |
| <b>3 SNS・ネット情報に<br/>対する正誤判断の<br/>基準など</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● SNS・ネット情報を「正しい」と判断する基準として最も多いのは、<b>「公的機関が発信元・情報源」(41.1%)</b>。</li> <li>● 偽・誤情報と気づいた経緯は、「テレビ・新聞(ネット版含む)」(39.6%)、「テレビ・新聞以外のマスメディア(ネット版含む)」(30.4%)※3、「ネットニュース」(28.8%)という<b>ネット版を含めたテレビ・新聞、ラジオ・雑誌などから偽・誤情報の可能性があると感じた</b>人が多かった。<br/>※3 「マスメディア」を「テレビ・新聞(ネット版含む)」と「テレビ・新聞以外のマスメディア(ネット版含む)」(雑誌、ラジオなど)として調査</li> </ul> |
| <b>4 ICTリテラシー<br/>に関する認識</b>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「自身のICTリテラシーが高いと思う」という回答は<b>35.2%</b>に留まった一方、「ICTリテラシーが重要だと思う」、「どちらかといえば重要だと思う」との回答が<b>87.8%</b>と高い割合を示した。</li> <li>● 87.8%がICTリテラシーが重要だと回答した一方、<b>75.3%</b>は「ICTリテラシー向上に向けた具体的な取組をほとんど行っていない」、「全く行っていない」と回答した。</li> </ul>                                                                                        |

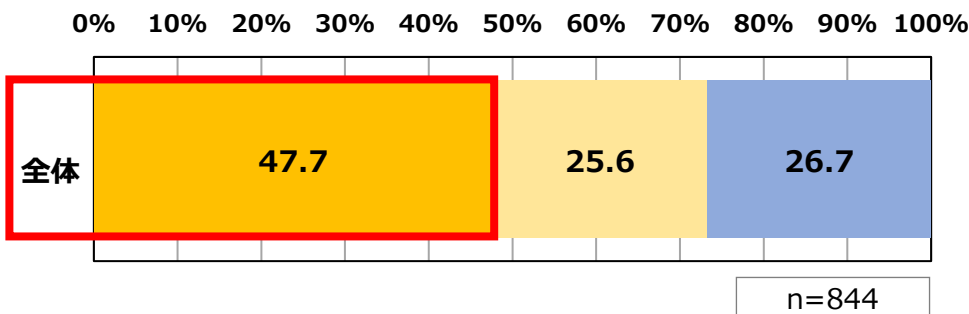
# 1. 偽・誤情報の認識・拡散状況

## 偽・誤情報の認識・拡散状況

- 過去に流通した偽・誤情報を見聞きした人に対して、その内容の真偽をどのように考えるか尋ねたところ、**「正しい情報だと思う」、「おそらく正しい情報だと思う」と回答した人の割合は47.7%。**
- 偽・誤情報に接触した人のうち、**25.5%**の人が何らかの手段を用いて**拡散**していた。

### 偽・誤情報の真偽判断

- 「正しい情報だと思う」「おそらく正しい情報だと思う」
- 「どちらともいえない」
- 「誤った情報だと思う」「おそらく誤った情報だと思う」



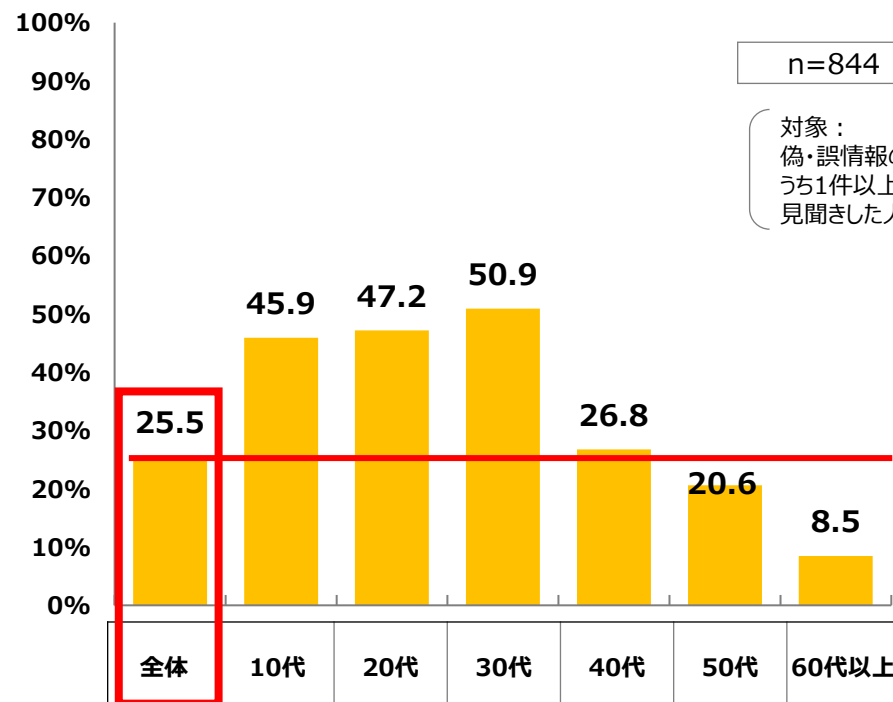
偽・誤情報の接触数に応じた加重平均で算出

(各情報ごとに、見聞きした人の中で『正しい情報だと思う』と『おそらく正しい情報だと思う』/『どちらともいえない』/『誤った情報だと思う』/『おそらく誤った情報だと思う』と回答した人数をそれぞれ合計したのに対して、各情報について「見聞きした人数」の合計値で割る形式)

対象：  
偽・誤情報のうち  
1件以上見聞きした人

### 偽・誤情報を何らかの形で拡散した人の割合

■ 偽・誤情報15件のうち、1件以上見聞きした人の中で、1件以上家族や友人などの周囲に伝えたり、不特定多数の第三者に対して発信したと回答した人の割合



※本調査で用いた偽・誤情報は、国内において実際に流通・拡散したことがあるものを用いている

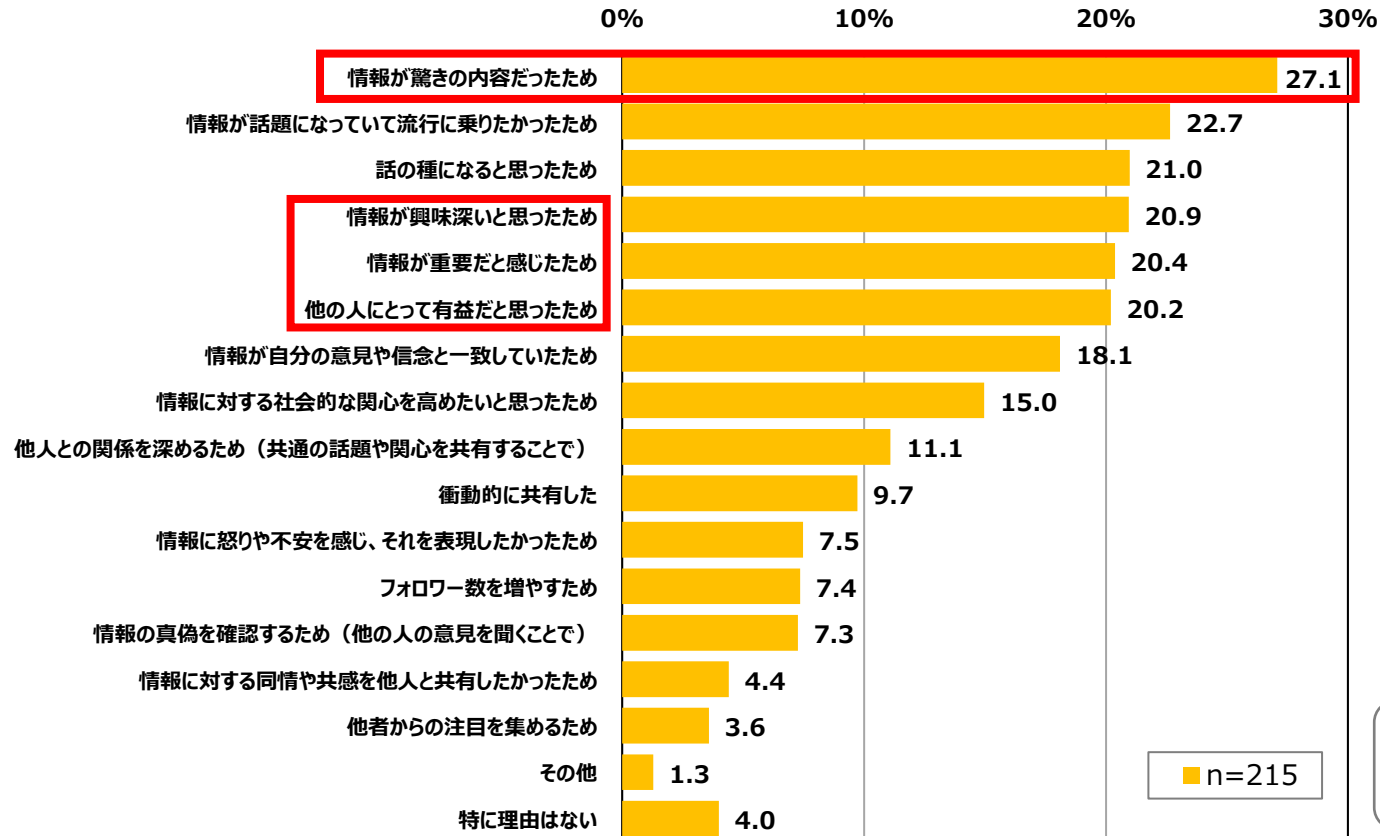
※「令和2年国勢調査」の人口構成比を基にウェイトバックを行い調整をしている

## 2. 偽・誤情報の拡散理由と手段

### 偽・誤情報を拡散した理由

- 偽・誤情報を拡散した理由は、「情報が驚きの内容だったため」(27.1%)という回答が最も多かった。
- 「興味深いと思った」(20.9%)、「重要だと感じた」(20.4%)、「他の人にとって有益だと思った」(20.2%)など、情報に価値があると感じて拡散したと思われる回答が多かった。

### 偽・誤情報の拡散理由（複数回答）



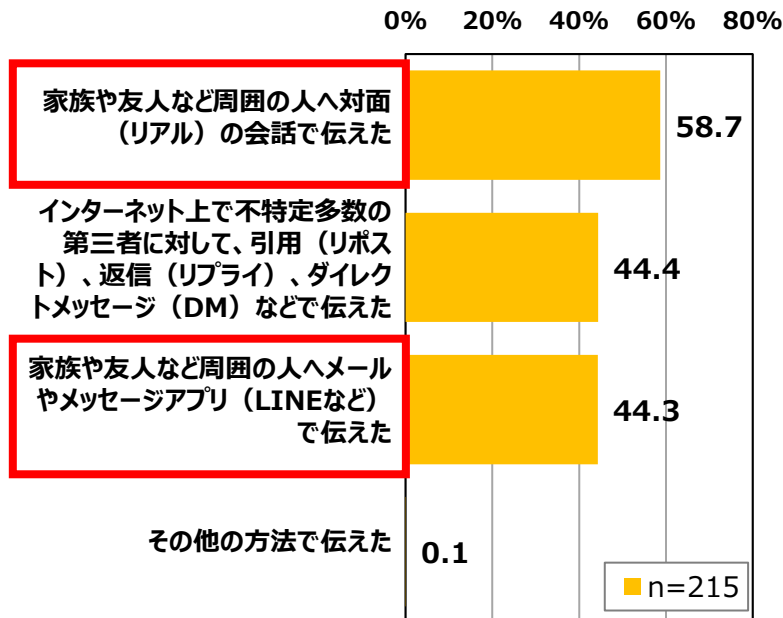
対象：  
偽・誤情報15件のうち1件以上見聞きし、  
かつ1件以上拡散した人

## 2. 偽・誤情報の拡散理由と手段

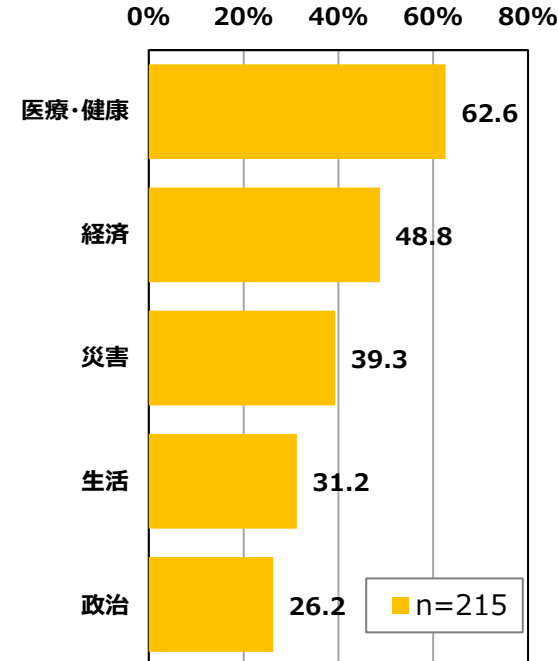
### 偽・誤情報の拡散手段、拡散した偽・誤情報のジャンル

- 偽・誤情報を拡散した手段として、「家族や友人など周囲の人へ対面の会話」(58.7%)、「家族や友人など周囲の人へメールやメッセージアプリ」(44.3%)という回答があり、**身近な人に拡散することが多かった**。また、不特定多数にインターネットを用いて拡散する者も存在した(44.4%)。
- 拡散された偽・誤情報のジャンルは「医療・健康」(62.6%)、「経済」(48.8%)、「災害」(39.3%)の順で多かった。

#### 偽・誤情報の拡散手段 (複数回答)



#### 拡散された偽・誤情報のジャンル (複数回答)



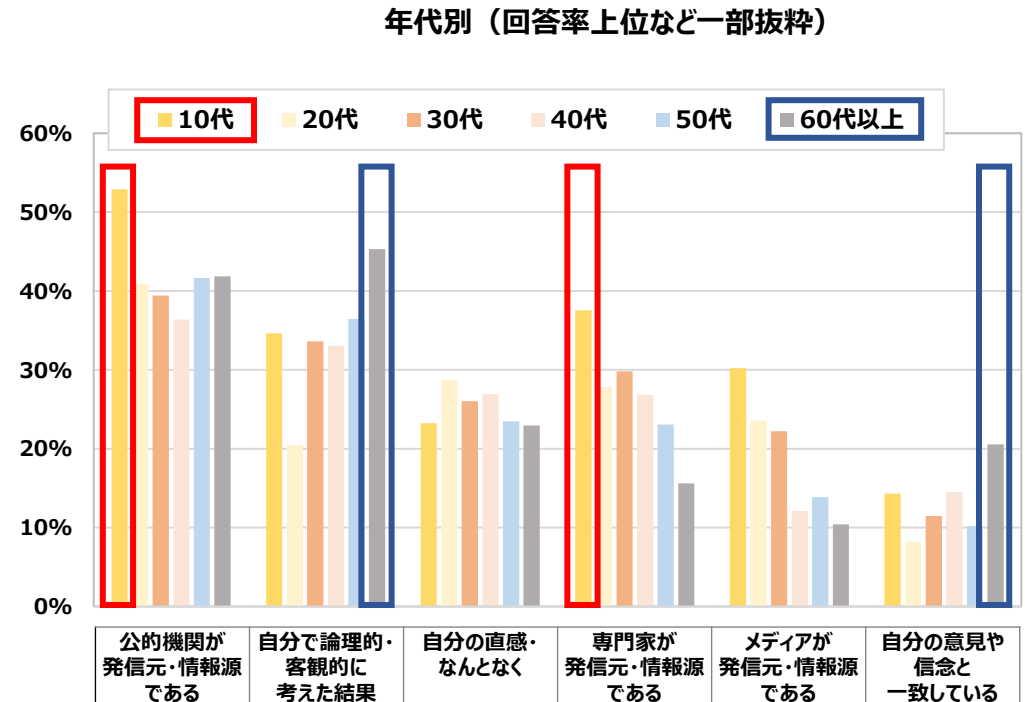
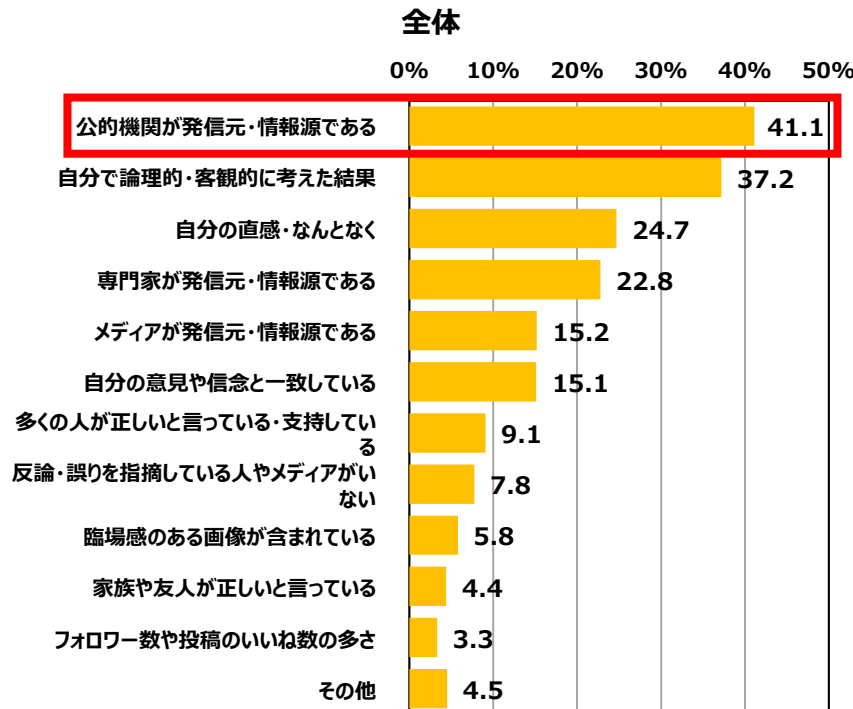
対象：  
偽・誤情報15件のうち  
1件以上見聞きし、  
かつ1件以上拡散した人

### 3. SNS・ネット情報に対する正誤判断の基準など

#### SNS・ネット情報を「正しい」と判断する基準

- SNS・ネット情報を「正しい」と判断する基準は、「**公的機関が発信元・情報源である**」(**41.1%**)という回答※が最も多かった。 ※偽・誤情報の接触有無を問わず全員に質問
- 10代では「公的機関」、「専門家」などの回答が多く、60代以上では、「自分で論理的・客観的に考えた結果」、「自分の意見や信念と一致している」などの回答が多かった。

#### ネット情報を「正しい」と判断する基準（複数回答）



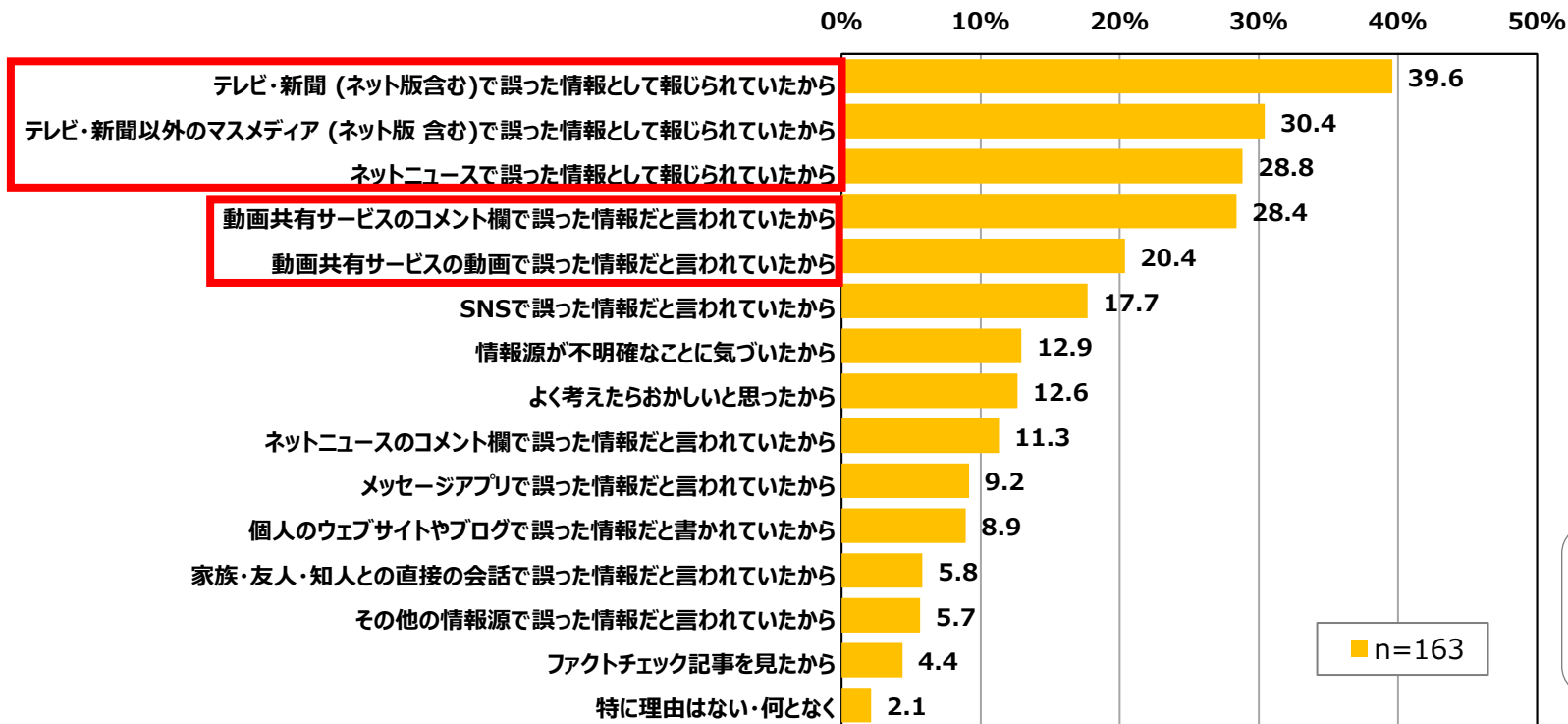
#### 拡散した情報が偽・誤情報だと気づいた経緯

- 「テレビ・新聞(ネット版含む)」(39.6%)、「テレビ・新聞以外のマスメディア(ネット版含む)」(30.4%) ※、「ネットニュース」(28.8%)と、**ネット版を含めたテレビ・新聞、ラジオ・雑誌などから偽・誤情報の可能性****がある**と気づいた人が多かった。

※「マスメディア」を「テレビ・新聞（ネット版含む）」と「テレビ・新聞以外のマスメディア（ネット版含む）」（雑誌、ラジオなど）として調査

- 「動画共有サービスのコメント欄」(28.4%)、「動画共有サービスの動画」(20.4%) と、動画共有サービスが偽・誤情報の可能性があると気づくきっかけとして活用されていた。

#### 拡散した情報が偽・誤情報の可能性があると気づいた経緯(複数回答)



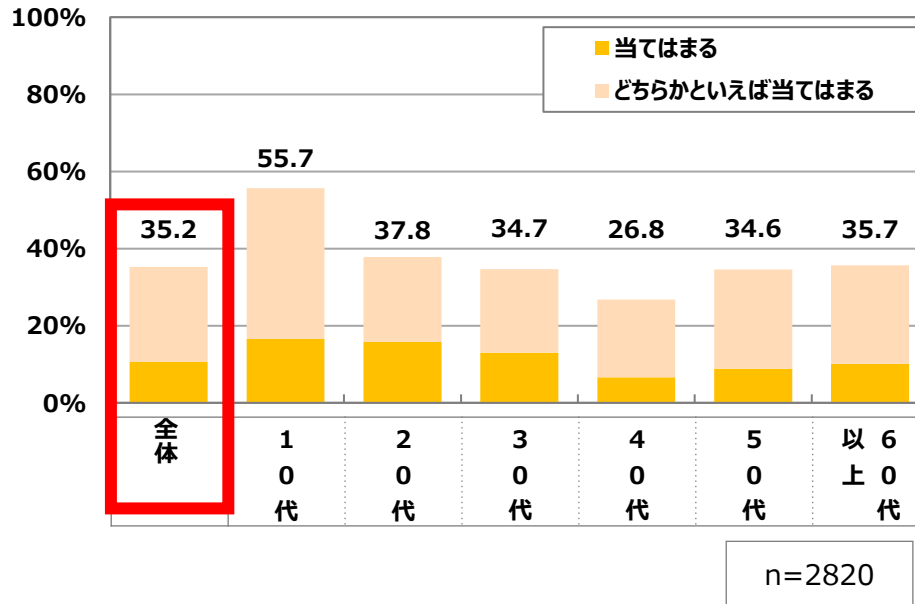
対象：  
偽・誤情報15件のうち1件以上見  
聞きし、1件以上拡散した人のうち、  
誤った情報の可能性があったと思っ  
たうえで発信した人

## 4. ICTリテラシーに関する認識

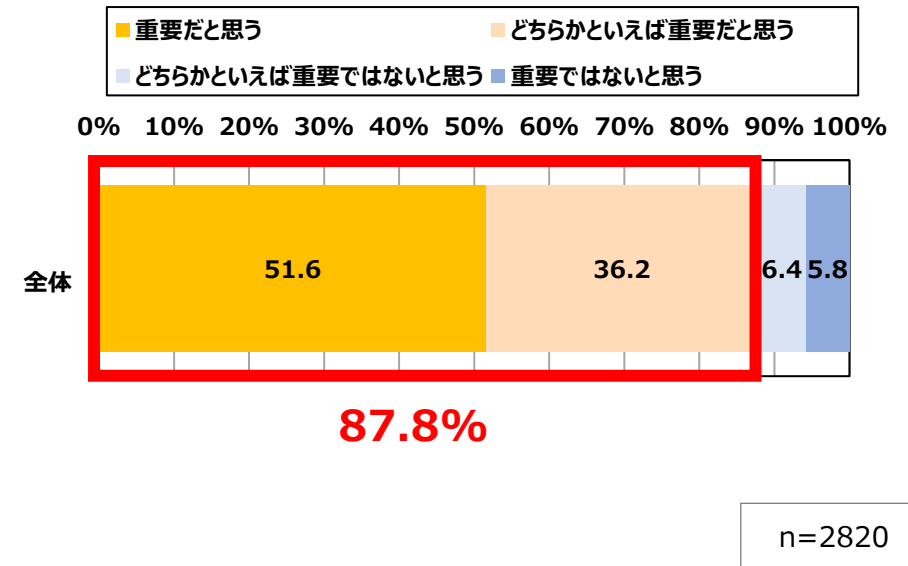
### 自身のICTリテラシー向上に対する意識

- 「自身のICTリテラシーが高いと思う」という回答が**35.2%**に留まった一方、「ICTリテラシーが重要だと思う」、「どちらかといえば重要だと思う」との回答は**87.8%**と高い割合を示した。

#### 自身のICTリテラシーが高いと思う



#### ICTリテラシーの重要性に関する意識



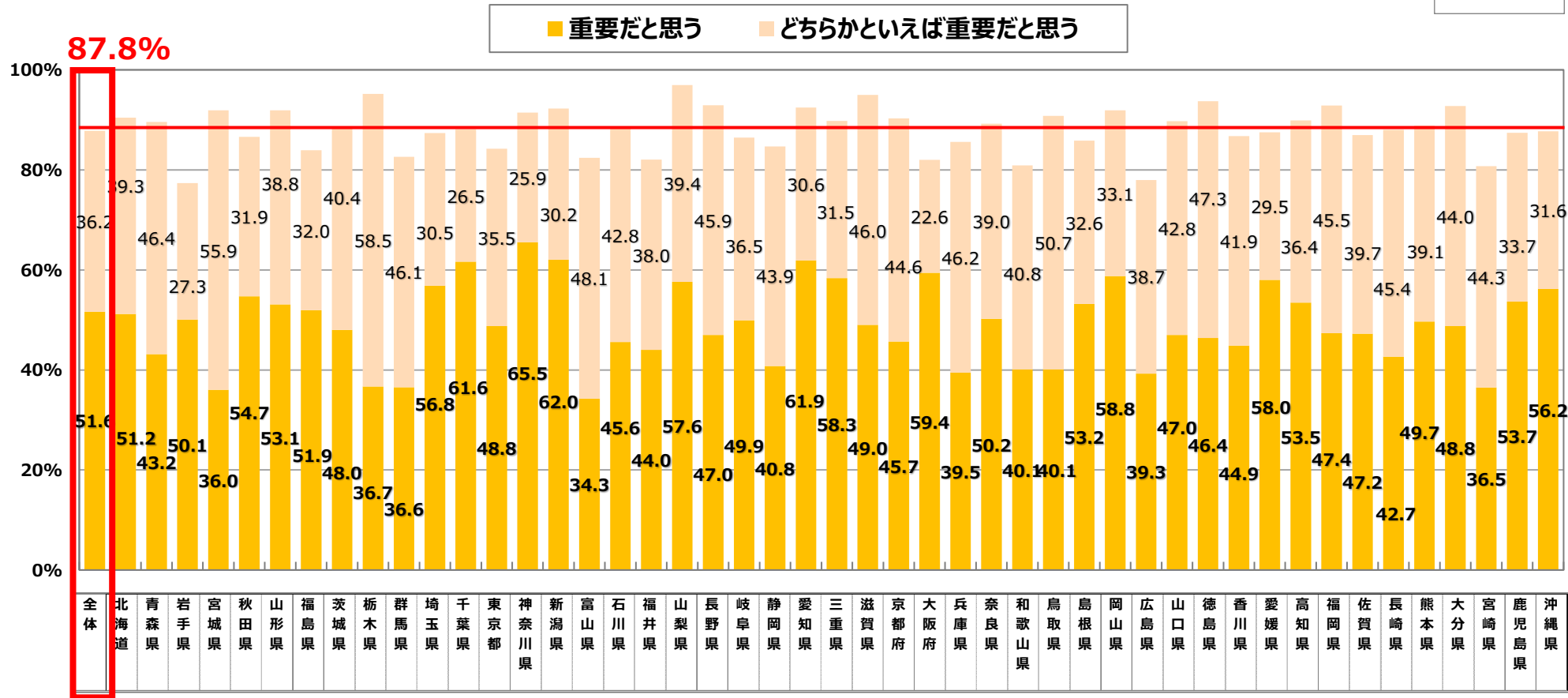
## 4. ICTリテラシーに関する認識

### 自身のICTリテラシー向上に対する意識（都道府県別）

- 地域による有意な差は見られなかったが、「ICTリテラシーが重要だと思う」(51.6%)、「どちらかといえば重要だと思う」(36.2%)という回答は87.8%であり、**約9割がICTリテラシーが重要だと回答した。**

### ICTリテラシー向上に対する意識（都道府県別）

n=2820

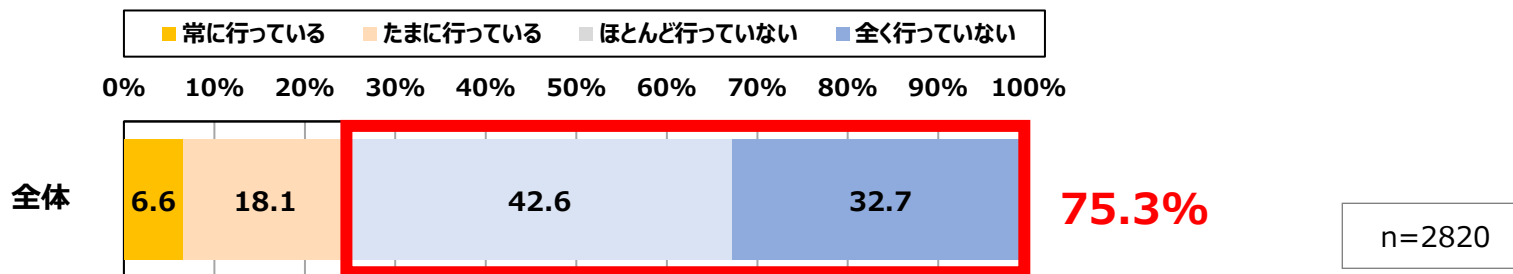


## 4. ICTリテラシーに関する認識

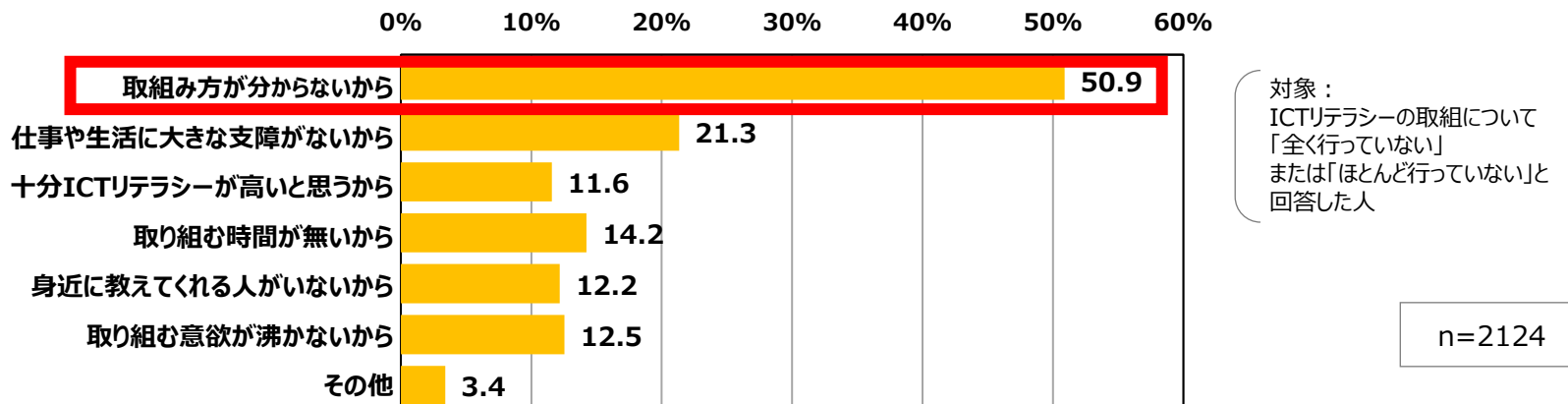
### 自身のICTリテラシーに関する取組の認識と理由

- 87.8%が ICTリテラシーが重要だと回答した一方、「ICTリテラシー向上に向けた具体的な取組をほとんど行っていない」、「全く行っていない」という回答が**75.3%**であった。
- 取組を行っていない理由は、「**取組み方が分からないから**」(**50.9%**)という回答が最も多かった。

#### ICTリテラシー向上の取組の実態



#### ICTリテラシー向上に向けた取組を行っていない理由(複数回答)



## 4. ICTリテラシーに関する認識

### 自身のICTリテラシー向上の取組の認識（都道府県別）

- 地域による有意な差は見られなかったが、87.8%がICTリテラシーが重要だと回答した一方、「ICTリテラシー向上に向けた具体的な取組を常に行っている」、「たまに行っている」という回答が24.7%と、重要性の認識と比較すると取組が少なかった。

### ICTリテラシー向上の取組の認識

n=2820

